

1) 分析前の準備

- ① 分析室の空調のスイッチを ON にする (ベースラインの安定化のため、必要に応じて空調を入れ、室内の温度を最適化する)。
- ② HPLC 装置 (ポンプ、検出器、カラムオープン、データ処理器など) のスイッチを ON にする。
- ③ 移動相を調製する。「移動相の調製」p. 24, 25 をご参照ください。
- ④ HPLC 装置の始動前に以下を確認する。

確認場所	確認ポイント
移動相貯槽 (a)	浮遊物が入っていないか？ → 移動相を調製後、時間が経過している場合再調製する。 → 調製直後はろ過をする。 容量は十分入っているか？
インレットチューブ (b)	気泡が入っていないか？ → ドレインバルブを開け、装置のパージ機能を使用して、十分に気泡を追い出してください。
ポンプのラインフィルター (c)	例：ポンプの出口配管を外してポンプの出口に何もつながっていない状態で水を 1 mL/min で送液したとき、圧力表示値が 0.3 MPa 以下 (詳細についてはポンプの取扱説明書をご参照ください)。
廃液瓶 (d)	廃液瓶に十分空きはあるか？

- ⑤ 移動相の置換を行う。
- ⑥ カラムを接続する。
- ⑦ 移動相を送液後、以下を確認する。

確認場所	確認ポイント
HPLC システム全体の流路 (e)	流路の接続部に漏れはないか？
オートサンプラー (g)	十分な量の洗浄溶媒が入っているか？ 測定サンプルのバイアル位置がずれていないか？
検出器 (i)	セルから液漏れしていないか？

- ⑧ 以下を確認後、分析を開始してください。
※ グラジエント分析の場合は、ブランク分析 (サンプルを含まない水や溶媒のみの分析) を行ってから測定サンプルを分析してください。

確認場所	確認ポイント
ポンプ (f)	圧力は安定しているか？ 安定していない場合は、「T7. 送液ポンプの圧力が変動する」p. 45 をご参照ください。
カラムオープン (カラム恒温槽) (h)	温度は設定値に達しているか？
データ処理器 (j)	ベースラインは安定しているか？ 安定していない場合は、「T4. ベースラインが安定しない」p. 44 をご参照ください。

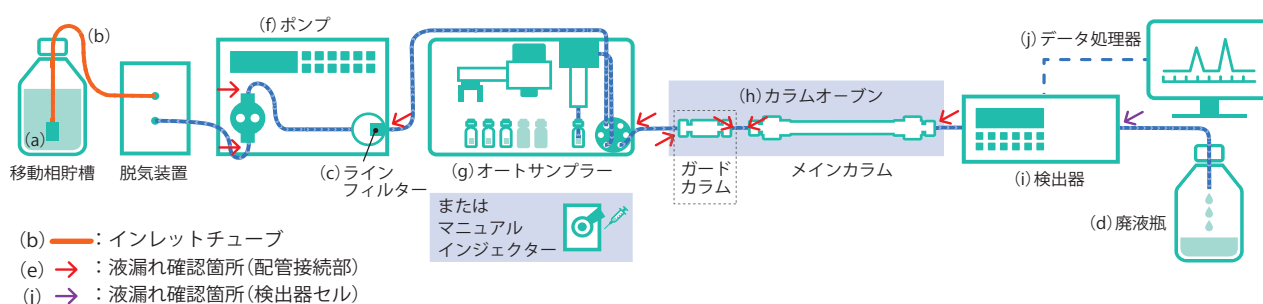


図 1. HPLC 基本装置の分析前確認ポイント

2) 分析終了後

しばらく分析を行わない場合は、カラムを洗浄した後、装置から取り外して保管してください。

- ① カラムの洗浄
カラムによって異なるため、取扱説明書を確認してください。コスモシールの場合は、よくあるご質問の「Q13. カラムの洗浄方法は？」p. 37 を参考にしてカラムを洗浄してください。
- ② カラムの保管
カラムによって異なるため、取扱説明書を確認してください。コスモシールの場合は、よくあるご質問の「Q14. カラムの保管方法は？」p. 38 を参考にしてカラムを保管してください。
- ③ 装置の洗浄
装置によって異なるため、取扱説明書を確認してください。
- ④ 各装置のスイッチを OFF にする。
- ⑤ 分析室の空調のスイッチを OFF にする。